

パネル・ディベートの実際－論題選定－

ディベートの理解と第一次意見文

生徒にアンケートをとって見たところ、パネルディスカッションについては知っていましたが、ディベートについての知識はありませんでした。そこで、まず、「購買部は必要か」という論題で行われたディベートのビデオを見せました。これは、前任校で国語の時間に行ったものです。次に、「制服は必要か」という論題で行われたディベートを台本を読む形で再現しました。

このようにして、ディベートへの理解を図り、その後、自分たちが取り組む論題を出し合いました。授業者のほうから、いくつか例を出した結果、生徒からたくさんの論題が出されました。その中から、次の2つの観点により、いくつかに絞り込みました。

- (1) 家族に関わるもの
- (2) 中学3年生として興味のある社会問題

論題候補

- 日本は自衛隊をなくすべきか。
- 日本は原子力発電所をなくすべきか。
- 中学校は制服をなくすべきか。
- 2泊3日で修学旅行に行くとしたらどこがよいか。
- 日本は死刑制度をなくすべきか。
- 医師は治らない病気を告知すべきか。
- 小学校に英語教育を導入すべきか。
- 中学校は昼食を弁当にするべきか。
- 日本は脳死を人の死とするべきか。

その後、絞り込まれた論題について自分の考えを明確にするために、第一次意見文を作成しました。以下が、告知問題に対する生徒の第一次意見文です。

私は、治らない病気を告知すべきだと思います。その理由は、もし自分が患者さんだった場合、はっきりと言ってほしいからです。何にも知らされないで、ずっと病院に入っているよりも、残りの短い期間を楽しんで過ごしたほうが、この世に悔いを残さないで死んでいけるでしょう。私は、これらのことから、告知したほうが良いと思いました。

パネル・ディベートの論題選定

今回は、パネルディスカッションとディベートのよさを合体させたパネル・ディベートを行うことを生徒に知らせました。そして、第一次意見文を参考にしながら、以下の2つの観点から論題を2つに絞りました。

- 話し合いが広がっていく可能性をもつ論題
- 多値的応答が保障され、いろいろな考えが認められる論題

論題1

治らない病気を患者に告知すべきか。

論題2

日本に原子力発電所は必要か。